

睡眠時無呼吸症候群を知っていますか

睡眠時無呼吸外来創設

「夜中に息が止まっている」「いびきがすごい」と、言われたことはありませんか。朝起きたときに熟睡感がなく、昼間異常に眠たくなる人は、睡眠時無呼吸症候群の疑いがあります。

睡眠時無呼吸症候群が生活習慣病などの合併症を起こす危険性が高いことから、本年4月から、当院において『睡眠時無呼吸外来』を創設し、検査や治療の導入を行うことにしました。

睡眠時無呼吸症候群の危険性

睡眠時無呼吸症候群は、夜間の不眠や日中の傾眠を起こすだけでなく、高血圧や肺動脈圧の上昇により、心肥大をもたらし、狭心症や心筋梗塞の原因にもなります。また、糖尿病や脳卒中の危険性も増します。これらは、夜間に体中の細胞に酸素が足りなくなり、さまざまな炎症を起こすことや、交感神経の活性が高まることが原因と考えられています。

さらに、日中の傾眠状態から、健康な人に比べて、交通事故を起こす危険性も約7倍に高まるとのデータがあります。

無呼吸検査方法

日中の過度な眠気や、いびき・無呼吸を指摘されて外来受診した場合、簡単な問診を行います。検査の必要があれば、まずは自宅に器械を持ち帰ってもらい、簡易検査を行います。簡易検査の結果、睡眠時無呼吸症候群である可能性が高く、さらに詳しい検査が必要であれば、1泊入院の検査をおすすめします。当院で導入した入院検査は無線型のため、センサーを装着したまま自由に動くことができ、普段どおりに寝ることが可能です。

治療

睡眠時無呼吸症候群の治療が必要な人には、当院では複数の診療科が協力して、最善の治療方法を相談します。詳しくは、市立病院ホームページをご覧ください。

